

みしま

このながい
この想い

特集◎三島町文化祭
青少年の主張



2008
12

広報みしま No.189

Photo/宮下地区のボランティアグループ「ひまわり会」は、同地区の81歳以上の方々58名のためにお弁当を作り、それぞれの自宅に届けた。(11月27日) ※裏表紙 連載「三島人」に記事掲載

喜んでもらいたいから
心のこもったお弁当を届ける
宮下地区の女性ボランティアグループ
ひまわり会



上▲ボランティアグループ「ひまわり会」の皆さん

下▼宮下地区の81歳以上の方々58名にお弁当を届けた。



宮下地区の女性ボランティアグループ「ひまわり会」は、十一月二十七日、同地区の八十一歳以上の方々五十八名のためにお弁当を作り、それぞれの自宅まで届けました。これは町社会福祉協議会の助成を受けて毎年実施されているもので、お弁当は無償で届けられています。ひまわり会は平成二年に結成され、現在は十三名のメンバーがいます。高齢者の楽しみの一つとなるように、お弁当の配達を続けてきました。代表の酒井ハナヨさんは、

「特に一人暮らしの方には大変喜ばれています。地域のためにできることとして、今後も続けていきたいです。」と話します。喜んでほしいから。笑顔が見たいから。そんなあたたかい気持ちで、このお弁当には詰まっています。



人口と世帯 11月1日現在 (住民基本台帳)

人口	2,154人 (-5)	10月中の	出生1人
(男)	1,014人 (-2)	人の動き	死亡2人
(女)	1,140人 (-3)		転入3人
世帯数	863世帯 (±0)		転出7人

広報みしま 12月号 No.189

発行日 平成20年12月5日
編集 三島町役場 総務課 企画財政係
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
Tel. 0241-48-5515
ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>
印刷 株式会社アポロ



「広報みしま」は環境にやさしい大豆インクを使用しています。

※本誌の印刷経費は1部62.03円です。

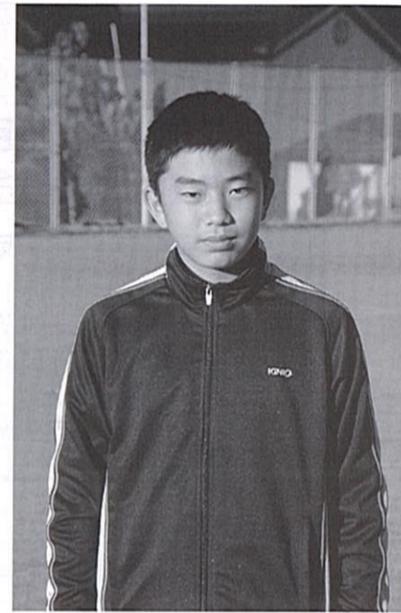
みしま 編集後記

▶友達というのは、なくてはならない人と人とのつながりである。(本名将くん) ▶「虫送り」が、みんなから愛される伝統行事になるようがんばりたい。(渡辺翔太くん) ▶三島町の川にもごみがあって、とても美しいとはいえません。(長谷川彩さん) ▶一言思いやりを持って「いっしょにやろう。」と言えればいいのですから。(二瓶孝章くん) ▶目標を持ってしっかりやった練習の結果と、なんとなくやった練習の結果はまったく違います。(大竹夏奈さん) ▶感受性の高い子どもたちの言葉は正直です。魂があります。忘れてはいないでしょうか。子どもの頃に描いた夢を。チャレンジは、今からでも遅くはありません。

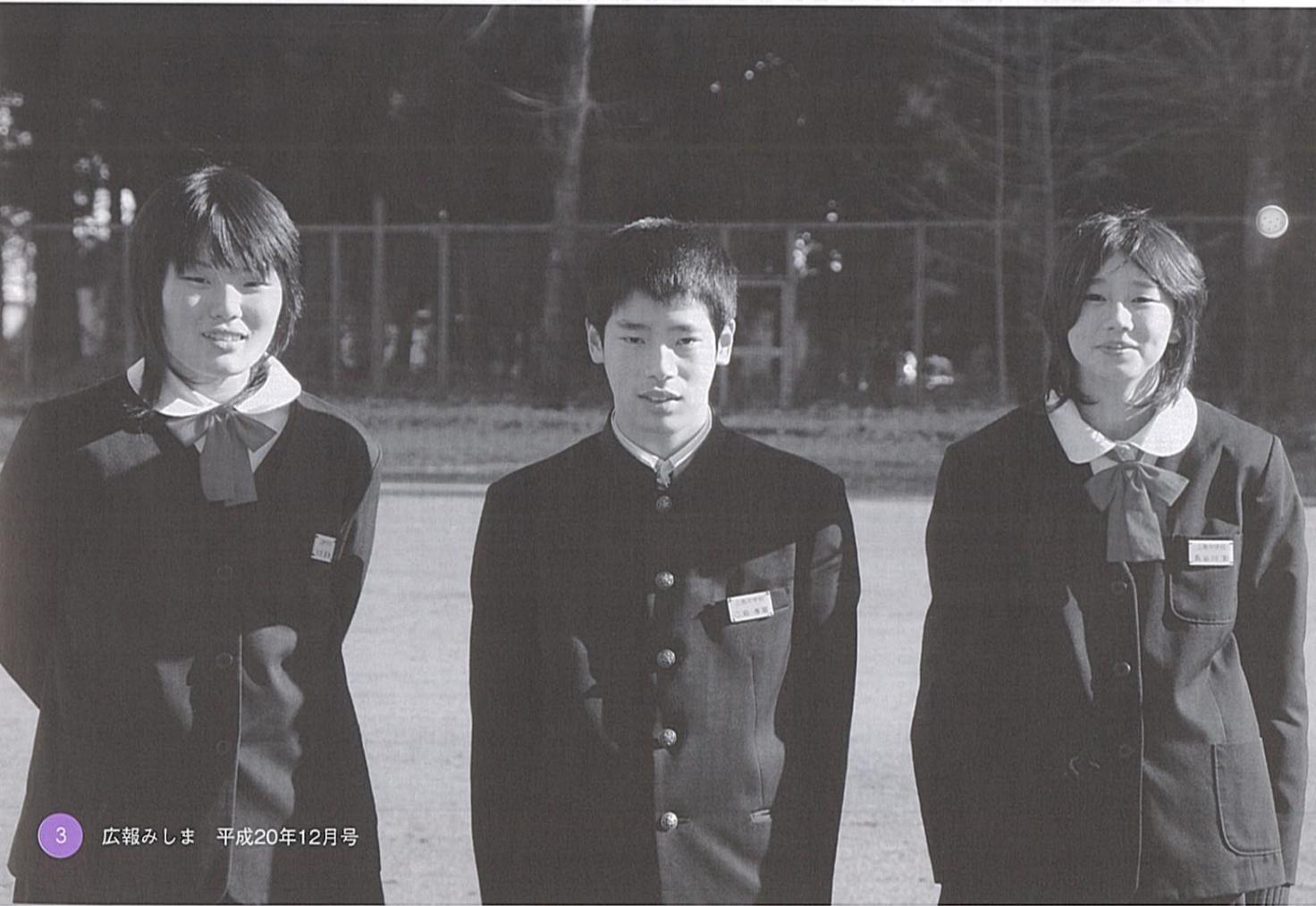


舞台上上がり大勢の前でスピーチする
とても勇気のいることだ
友達へ、後輩へ、地域のみなさんへ
自分の想いを語った五名の皆さん
この経験は、きっと明日へつながる

つな がれ この 想 い



特集◎三島町文化祭 青少年の主張



「虫供養」を継承する早戸地区の皆さん（11月10日、虫供養塔の前で）

伝統行事「虫供養」と石仏・石塔が点在する「神々の道」 地区の宝を守る早戸地区を表彰

《生涯学習文化表彰》

三島町文化祭は、十一月三日（文化の日）、町民センターで行われました。
町が優れた文化活動などを表彰する生涯学習文化表彰では、希少な伝統行事「虫供養」と、三十余りの石仏・石塔が点在する「神々の道」を保存・継承している早戸地区が選ばれ、齋藤茂樹町長から早戸区長の目黒卓男さんに表彰状が手渡されました。また、社会を明るくする運動標語コンクールと交通安全運動標語コンクールの表彰式が行われ、特選を受賞した六名の小中学生が表彰されました。
続いて、「青少年の主張」が行われ、五名の小中学生が自分の体験や想いを発表しました。会場に訪れた方々は、小中学生の心のこもったスピーチに聞き入っていました。その後、小中学生による合唱や、一般参加者による演芸会が行われ、それぞれ日頃の努力の成果を披露しました。
会場には、書、絵画、生け花、写真など、町民の作品が多数展示されたほか、健康づくりコーナーやブロードバンドPRコーナーなどが設けられ、来場者の関心を集めていました。

社会を明るくする運動標語コンクール

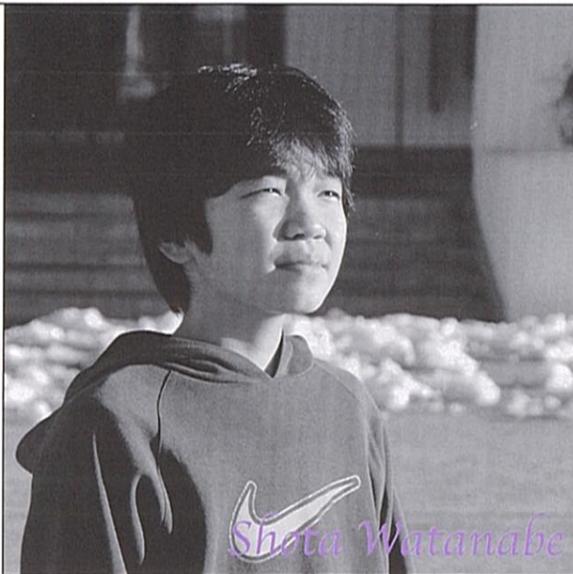
- 特選** 朝一番 笑顔でおはよう 明るい家庭
板橋和奏さん（小6・宮下）
- 特選** 思いやり みんなの心が つながるよ
板橋 雄くん（小6・滝原）
- 特選** やめなよと いえる勇気が いじめをなくす
阿部 茜さん（中3・松原）
- 特選** 地域の人と 子供がふれあい 大家族
山口百恵さん（中2・松原）

交通安全運動標語コンクール

- 特選** でかけるまえに かぞくでかくにん こうつうルール
吹上裕生くん（小1・中平）
- 特選** 続けよう ルールを守って 無事故の日
小柴 遥さん（中3・中平）

- 三島小児童の合唱は「エーデルワイス」の2曲、三島中学生の合唱は「3月9日」「いざ起て戦人よ」など5曲が披露された。
- 会場には生け花や書など、町民の作品が多数展示された。
- ブロードバンドPRコーナーではテレビ電話や地上デジタル放送などが体験でき、今後の情報通信における様々な魅力がPRされた。





Shota Watanabe

みんなから愛される伝統行事
心をこめて受け継ぎたい

「大石田の虫送り」

渡辺 翔太くん

わたなべ しょうた 三島小6年 大石田

「好きなスポーツは走り高跳びです。」

七月二週目の土曜日、ぼくが住んでいる大石田地区では、毎年「虫送り」の行事を行っている。ぼくは、この虫送りの行事に、保育所の年長の時から毎年参加している。虫送りとは、稲を食べる害虫を退治し、米の豊作を願う行事だ。

「では、子どもたちみんなで遊びながら虫取りをする。そして、特に盛り上がるのは夜だ。その害虫たちをわらで作った大きなかごに入れ、みんなで行列をつくり、

「でんばら虫をおくれよ。」と大きなたいこをたたきながら、みんなでかけ声合せて歩く。気分は乗ってきてとんだ大きな声になる。夢の中に入りこんでいくような時間だ。

しかし、何年も変わらず同じ内容を続けるので、中学年になるとある思いが自分の中に出てきた。「めんどくさいな。やりたくないな。」だとか、「命ある虫をわざわざ殺すのはかわいそうじゃないか。」などという思いだ。そのために、中学年の時は昼の虫送りには出ないということが二年ほど続いた。

そして昨年、五年生の時の虫送りの日、友達といっしょに、その前の年と同じように昼の虫送りをやらずに遊んでいたところ、大石田地区の奉仕団の人たちが虫送りの準備をしているところを見た。ぼくの父と同じような年の人たちが二十人くらいで、わらで虫を入れるかごを作ったり、行列のためのたいこをだし車に乗せ、かざりをつけたりしていた。

大変な仕事だが、どの人も真剣な表情で生き生きと仕事をしていた。

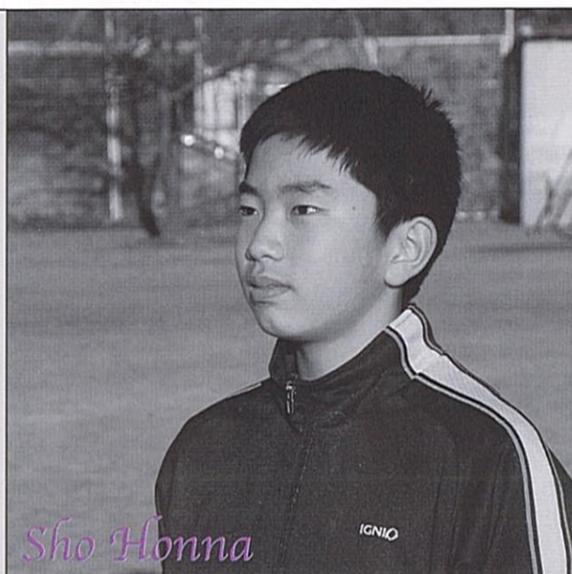
共に励まし共に助け合う
友達とのきずなを大切にしたい

「ぼくの一夏の友達」

本名 将くん

ほんな しょう 三島小5年 西方

「将来の夢は野球選手。読売ジャイアンツのファンです。」



Sho Honna

ぼくの一夏の友達には四人いる。みんなそれぞれ違った性格で、違った特技を持っている。また、困った時は助け合ったり、はげまし合ったりして、みんなすごく仲が良いのだ。まず一人目の大事な友達は、スポーツが得意な板橋健太君だ。健太君は、小がただでなく、足が速くて、走ることが大好きな人だ。いつも体育で道具を取りに行く時、どちらが先に取るか競争したりして、ちよつとした時間に健太君と対決している。でも、一度も健太君に勝つことがない。だから、たくさん練習して、健太君より速くなりたいと思っている。二人目の大事な友達は、すごくおもしろい五十嵐基君だ。基君は、いつも変な事を言ったり、ふざけた行動をしたりして、みんなを笑わせる。また、健太君と同じでスポーツが得意だけれど、すごくドジで、走っている時に転んだり、物にぶつかったりして、すごくおもしろいのだ。基君は集中力がなくて、授業中にいつも外を見ている。しかも、宿題をやったことない日が多くて、昼休みにやっている。ぼくは、そんな基君を見ているとかわいそうだし、助けてやりたいから、手伝ったりする。だけれど、ぼくも基君に助けてもらったりする。だから、ぼくと基君は助け合っているから生活しているのだ。

最後の四人目の大事な友達は、ぼくたち四人をまとめてくれる中学一年生の小平達也君だ。達也君は、中学生としてぼくたちよりもななスポーツのことや、勉強のことなどを教えてくれたり、いっしょに遊んでくれたりする。でも今の達也君は、部活などで帰りがおそいため遊んでもないし、会ってもいられない。だから、土・日曜日しか遊ぶことができないのだ。達也君は小学六年生だったころから、すごく人気者だった。ぼくが校庭で下学年と遊んでいたら、達也君が校庭に来たしゅんかん、下学年の人たちがあだ名で、「たっちゃんだ。」と大きな声で言っていて、達也君の所に

みんな集まるのだ。ぼくはいつも、なんで達也君は人気者なのだろうと思ってた。他にも、達也君はみんなを笑わせたりする。例えば、ものまねをしたりショートコントをしたりしてみんなを笑わせる。それに、やさしいところもあるから人気者なのかもしれないと思う。だが、そんな達也君でも怒る時もある。でもそこで達也君は学校の先生みたいに、やっつけたいいけないことや、どうしたいのかを教える。だから、達也君は今もみんなをまとめてくれると思う。達也君はすごいと思う。

虫送りの行事を成功させなければならぬという気持ちが伝わってきた。また、五年生の総合の学習で米作りについて調べた。その中で、現在の米作りと昔の米作りを比べた。その結果、昔の米作りは今の米作りと違い、すべて手作業で行っていて、手間も時間もとてもかかる。労働時間は現在の十倍以上になるといわれている。実際には自分たちも無農薬、手作業で米作りをやってみたが、よく気をつけて世話をしなければならず、手間がかかった。これらの経験から、昔の農家の人たちの、稲を大切に育てていきたい、大切に育てた米を害虫から守りたいという気持ちが分かった気がする。

こうしたことから、昨年、五年生の時にぼくの虫送りに対する気持ちが変わった。これまで続けられてきた虫送りの行事は、昔から大石田地区の人々が、心をこめて大切に行ってきたものだと思えた。

そして今年、六年生になって虫送りの行事の大役をまかされることになった。それは、夜の行列の先頭に立ち、行列を指揮する役目だ。

家の祖父や近所のお年寄りの人たちから、「いいか、翔太。虫送りの先頭を務める者はな、自分から大きな声を出して、みんなの気持ちを高めようぞ。それから、後ろを歩いている人たちの様子もしっかり見ながら歩かんね。」と言われた。

当日、いつものように、三島町の他の地域だけでなく、県内、東京などの都会から虫送りを見に来た人々

で、大石田はいっぱいになった。テレビ局からも取材に来ていた。行列をつくり、いよいよ出発となった時、ぼくはとても緊張し、足が動かない状態になった。だけれど、ぼくも大石田の子どもだ。大石田の虫送りを成功させるために、勇気を出してやりとげなければならぬ。大きく息をすって、

「でんばら虫をおくれよ。」と声をあげた。その後、いつものように夢の中に入りこんでいくような気持ちになった。

行列が終わった後、父に、「もつと声、大きくしろ。肺活量が足りねえな。来年もおまえが先頭をやんじゃねえのか。もつと運動しろ。」と言われた。それを聞きぼくは、休みの日には近所の友達とジョギングを始めた。

今年の虫送りに参加して、大石田にとって虫送りは大切な行事であることを改めて実感した。大石田に生まれてよかったという気持ちにもなった。

しかし、大石田に住む人が減ってきて、この行事ができなくなってしまうのではないかと心配することが心配だ。

これからも、虫送りに進んで参加していきたい。そして、虫送りがいつまでも残り、みんなから愛される伝統行事になるよう、祖父、父、その他の大石田の人たちを見習ってがんばっていききたい。

みなさんは、今の日本の自然環境についてどう思いますか。一般的には、緑が豊かで川と湖がとてきれいだと思える人もいますが、それは反対に、昔と比べて緑が少なくなっている人もいます。川と湖も汚れてしまったと考える人もいます。

世界的にも、自然環境の破壊が問題になっていて、地球温暖化や森林伐採などが進み、とても豊かな自然とはいえなくなりました。私たちの身近なところでも、山にごみなどを捨てる人がいて、木や草がとも汚くなっています。この状況は、どこの町でも問題になっています。では、三島町はどうでしょう。町がきれいで緑が豊かな三島町には、どんなことが起こっているのでしょうか。三島町は、景色がとてきれいで、空気がとておいしいところですが、汚れている場所がいくつかあります。

山はどうでしょう。山のすそ部分はとてきれいです。山の奥に入っていくとテレビや冷蔵庫などの粗大ごみがいっぱい捨てられているのを見ることがあります。その時、なぜ捨てられているのかわからず、がっかりしました。大きなごみを会社で持っていったら捨てると、お金がかかるから山に捨てるのでしょうか。とても残念なことだと私は思います。川はどうでしょう。三島町には、大谷川、只見川の二つの川があります。

三島町にもごみ問題がある
できることを少しずつ実行したい
「私達が今できること」

長谷川 彩さん

はせがわ あや 三島中1年 川井

「将来はファッション系の仕事につきたいです。」



Aya Hasegawa

すね。大谷川の下流の岸のところには、ペットボトルやお菓子の袋などのごみが捨ててありました。流されずに残ったごみがたまって、とても美しいとはいえませんが、川にごみも流すこともあるのでしょうか。そういう私も、ごみを岸のほうに捨てたり、近くに水道がなかったら絵の具を川で洗ったりしたことがあります。こういうことを続けていると、川が汚くなり、きれいとはいえなくなってしまうかもしれません。私も反省しなくてはならないと思います。ごみを流せば人に見つからずすむと思って、ついやってしまいがちですが、そういうごみ問題につながります。

では、町の中はどうでしょう。町の中はごみがなく、きれいなところといえるのでしょうか。

道端には、たばこのすいがらや空き缶、ペットボトルなどが捨ててあり、道が汚くなっているところもあります。車の排気ガスで黒く汚れているところも目につきます。

それでは、これを直すにはどうすればいいでしょうか。ごみを捨てないようにするだけでは、ごみは少なくなりません。道端でごみを見つけたら拾ったり、ごみ拾いのボランティア活動に参加するのもいいと思います。

それぞれ自分たちができることを、少しずつ実行していきましょう。

「人生って、何で成り立ってる？」
今、僕がみんなに伝えたいこと。それは「思いやり」です。

人生って、思いやりがないとだめだと思えます。「自分2他人8」。今はこれを目標としています。でもこれは、とても難しいことです。けれど、逆に言えば、「自分0他人10」ほどではありません。そんな完璧な人はいないでしょうし、それを実践しようとするれば死んでしまうから。

ある時、僕が部活のバレーボールでバスを始めると、バスをやる相手がおらず、一人でボールをつけていた友達がいきました。そして、二人でやっていた僕たちペアに、一人の友達が出てきて、「二人でやろう。」と言ってきたのです。一人の人がいるのだから、その人とやれば数が合うのになんかことを言ってきたら、僕はその友達に、「あいつとやればいいじゃん。」と指を差して言いました。すると、「バスは同じくらいの力の人とやんなきゃだめなの。」と言って、そちらに行こうとはしませんでした。その言葉を聞いた時、正直腹が立ちました。あまった一人の人とやれば、その人の練習にもなるし、すでにペアを作っていたこちらから見れば、一人分練習量が減ることになります。まだペアのできていない自分から見ればいいかもしれませんが、そんな自己中心的な行動はしてもらいたくありません。そんな事を言おうとしましたが、彼はもう

人生は
思いやりを積み重ねていくこと

「自分2 他人8」

二瓶 孝章くん

にへい たかあき 三島中2年 西方

「将来の夢は漫画家です。」



Takaaki Nihei

僕たちペアの中でバスを始めていました。結局、残っていた彼も、別のペアと三人でバスを始めていました。こんな小さいこと、と思うかもしれませんが、僕は大切だと思えます。一言思いやりを持って、「いっしょにやろう。」と言えはいいのですから。そういう場面は、僕たちの周りにはたくさんあります。電車で席をゆずったりするのもしょしょだと思えます。一言思いやりを持って、「どうぞ。」

これだけでいいのです。これだけで思いやりを表現することができると、これだけであなたがかい心が通い合うのです。そして、この思いやりは、他人から自分へ、自分から他人へとつながっていく、それを積み重ねていくことこそ、人生だと僕は思います。だから、僕は周りの人たちに大切にします。周りの人がいないと、生きていけないから。また、僕のことを周りの人たちも大切にしてください。こんなふうにうれしいことはないでしょう。

今、僕がみんなに伝えたいこと。それは「思いやり」とはこういうことです。だから、みんなも周りの人たちに大切にしてください。思いやりを大切にしてください。いつか自分にも、周りの人たちが思いやりの心をももらえるように信じて。

あの時、しっかりやっていれば…
もう後悔したくない

「後輩に伝えたいこと」

大竹 夏奈さん

おおたけ かな 三島中3年 滝谷

「将来は美容室の仕事がしてみたいです。」



Kana Otake

私には、今とても後悔していることがありません。あの時、どうしてしっかりやらなかったのだろうと。私は一年生の時、女子バレーボール部に入りました。私は、すぐにもうまくなるという自信がありました。なぜなら、小学生の時、母がやっていたバレーの練習についていき、一緒にバレーをしていたからです。中学生になったらバレー部に入ろうと決めていました。中学生になっても、練習は楽しくやれると思っていました。しかし、現実はずいぶん厳しい練習でした。自分が想像していたよりも、とても厳しい練習だったのです。

「絶対勝つよ。ここで負けたらダメだよ。」と強い気持ちでいました。私はその時、先輩達のためにもしっかりしてはと、思いました。その日は、リーグ戦で全勝。私はすごくうれしい気持ちでいっぱいでした。この日のために、つらく厳しい練習を乗り越えてきた日があっただけで、実感しませんでした。次の日はトーナメントで残念な結果に終わってしまいました。なんだから私はやりとげた満足感でいっぱいでした。

先輩達が部活から抜け、私と一年生だけになった女子バレーボール部。私は期待と不安でいっぱいでした。私が部長になって、女子バレー部を引っ張っていくことになった時、私で大丈夫なのか、私に部長が務まるのかという大きな不安を抱えていました。最初はそれなりにできていたかもしれないけど、日が過ぎるにつれ、みんなをまとめることができなくなりました。私は自分にシヨックを受けました。こんなはずじゃなかったのだ。そのうち部活にも行きたくなくなり、何らかの理由をつけて休むようになりました。練習をしたくないという思いはあっても、体が動かない。自分の思い通りにならなくて、不満もあつたかもしれません。その時私は、完全にやる気がなくなりました。バレーをしたくないという気持ちでいっぱいでした。練習も日に日にマンネリ化し、休む時間も増えていきました。そんなだらだらした練習を毎日続けていました。

言葉の力は人を変える 伝えれば自分も変わる

子どもたちの言葉から教えられることがたくさんあります。「友達とのきずなをずっと切らさずにいたい。」と語った本名将くん。自分に本当の親友と呼べる人がいるか、考えさせられるスピーチでした。「虫送り」の大切さを語った渡辺翔太くん。年中行事の本当の意味を、大人も考えなくてはいいけません。町のごみ問題について訴えた長谷川彩さん。私たちは、地域の汚れた所から目を背けてはいないでしょうか。一「瓶孝章くんの「人生は思いやりの積み重ね」というあたたかい言葉には、本当に感動しました。自分の弱さを素直に反省し、後輩に伝えた大竹夏奈さん。その経験は、必ず今後の人生に役立つと思います。

「話せば分かる」と言いますが、私たちは自分の思いをどれだけ人に伝えているのでしょうか。家族や友人と、本音で語り合っているのでしょうか。うまく話せなかったり、すれ違ってしまったりして、悩むこともあるのではないのでしょうか。話しても分かってくれないこともあるかもしれません。しかし、話さなければ何も変えることはできないのです。声を出して伝えれば、その思いは必ず誰かに届きます。言葉の力は、人を動かします。そして、伝えることができた自分に自信が持てます。勇気を出して一歩踏み出しましょう。きっと明日が変わるはずですよ。

特集「つなぐこれの思い」終わり

Interview



友達を信頼する気持ちや 伝統行事を大切に想う心に感動

三島小 坂内 洋二 校長先生

コミュニケーション力の低下等で仲間づくりが難しくなっている今日、信頼する多くの友達と切磋琢磨している将君の交友はすばらしいと思います。また、過疎・高齢化等の進行により集落の維持さえ危惧される中で、自らが伝統行事の心を引き継ごうと自覚した翔太君の思いに感動しました。三島の子ども一人一人が、この発表をきっかけとして自分を振り返り、ふるさとを見つめ、未来を創っていくことを願います。

全校生で「主張」に取り組む 生徒にとって貴重な体験

三島中 佐久間 雄彦 校長先生

文化祭「青少年の主張」の話を受け、中学校では国語科の木野先生のアイディアで、全校生で取り組みました。各学年の代表が、本誌で紹介された3名です。大勢の様々な世代の方々の前で、自分の考えや想いを発表するのは大変だったと思いますが、貴重な体験となったはずですよ。なお、全校生徒の原稿は製本し、職員室前に置いて閲覧できるようにしてありますので、地域の皆さんもどうぞ来校ください。



Interview

友人に、父に、母に、夫に、妻に、子に…
勇気を出して、想いを素直に伝えよう
その想いは、きっと明日へつながらる



森林の有効利用を考える

木質バイオマスシンポジウム



木質バイオマスシンポジウムが、十一月十日、町民センターで開催されました。三島町・柳津町・金山町・昭和村・民間業者及び関係機関により構成される会津西部木質バイオマス研究協議会の主催。シンポジウムでは、独立行政法人産業技術総合研究所の金山公三氏が「科学と経験・勘の融合による木質バイオマス有効利用の促進」と題して講演し、木の特性について分かりやすく解説しました。また事例発表として、那須町

にある「お菓子の城」を経営する(株)いづみや代表取締役の片桐俊輔氏(只見町出身)が、「一生懸命五十年」と題して木や自然を取り込んだ経営学について発表しました。次に、福島県林業研究センター森林環境部長の齋藤寛氏が、「木質バイオマス利用の可能性」と題して木質バイオマスが循環するための具体的な課題を提示しました。最後に、会津若松地方森林組合産業課長の青木喜章氏(西方)が、「会津産材利用促進のため

木質バイオマス

森林や住宅廃材などの木材からなる有機資源を「木質バイオマス」と呼び、石油に代わる新エネルギー源として注目されています。



←樹木を粒状に加工した「木質ペレット」を燃焼させるペレットストーブは、木質バイオマスを活用した代表例である。写真は、ふるさと荘に設置されているペレットストーブ。

エコツーリズムで地域を元気に

奥会津案内人講座2008 (第4回)



奥会津案内人講座は、自然・人・文化にふれながら、インタープリター(案内人)として活躍できる知識と基礎技術を実習形式で学ぶ講座です。第四回の講座は十一月二十二・二十三日、九名の受講者が参加して、森の校舎カククリで行われました。

この講座では、毎回ゲスト講師によるプログラムを行っています。今回は、NPO法人日本エコツーリズムセンター代表の広瀬敏通氏(静岡県)を招き、一日

目は、「地域を元気にするエコツーリズム」と題した講義が行われました。「エコツーリズム」という言葉には、「環境を悪化させない観光」あるいは「自然や生活文化を大切にす社会の仕組み」などの意味があります。この考え方をもちに、地域の自然や文化を活かした「エコツアー」が全国各地で行われています。広瀬氏は全国の様々な事例を挙げながら、「どんなエコツアーでも、地元の人とのふれあいが一



広瀬敏通氏



菊地修介氏

番心に残ります。人は人に感動するのです。ですから地元の人が必要とするところから大切ですよ。」と話ししました。二日目は、エコツーリズムの考え方を活かし、二グループに分かれて企画づくりの実習が行われました。また、NPO法人寺子屋方丈舎の菊地修

介氏(中平)を講師として「リスクマネジメント論」の講義が行われ、企画における安全対策について学びました。

第五回目は十二月二十一日です。本講座事務局では、町民の参加者を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

福島県知事表彰(統計功労者) 五十嵐健二さんが受賞

各種統計調査に35回従事



福島県知事表彰を受ける五十嵐健二さん

福島県統計功労者等表彰式は、11月7日、福島市の杉妻会館で行われ、町統計調査員の五十嵐健二さん(宮下)が福島県知事表彰を受賞しました。五十嵐健二さんは、昭和54年から町統計調査員を務めており、国勢調査、事業所・企業統計調査、工業統計調査などに計35回従事されてきました。現在は町統計調査員協議会の会長も務め、25名の調査員の模範として円滑な統計調査の実施にご尽力されています。個人情報の保護など、気苦労も多い統計調査の仕事に献身的に行ってきた五十嵐健二さん、本当におめでとうございます。町統計調査員の知事表彰は、長谷川四平さん(川井)に続き二人目です。

文化の保存・活用について話し合う

第2回三島町歴史文化基本構想等策定委員会



第二回三島町歴史文化基本構想等策定委員会は、十一月十四日、町民センターで開催されました。この委員会は、三島町における①地域の再活性化②過疎・少子高齢化への対応③文化の保存・活用を目的として、住民との対話をもとにした「三島町歴史文化基本構想」と「保存・活用計画」を作るためのものです。県立博物館長の赤坂憲雄氏を委員長として、文化財やエコミュージアムなどの有識者や、県の関係部局の職員など十六

名の委員により進められています。今回の委員会では、「サイの神」などの伝統文化を継承すること、観光などの経済活動に活用することの両面から話し合いが行われました。その中で「三島の生活文化を、新たなライフスタイルとして提案していきたい。」などの意見が出されました。

この委員会は一般公開とし、誰でも会場で聴くことができます。次回は十二月十九日午後二時から、町民センターで開催されます。

新そば200名限定食べ放題

おおたに新そばまつり



おおたに新そばまつりは、十一月十六日、大谷活性化センターで開催されました。このまつりは、大谷地区住民などによる実行委員会の主催で毎年開催されています。

地元産のそばを石臼で挽いたこだわりのそば粉を使い、メニューは、ざるそば・高遠そば・会津地鶏けんちんそばの三種類。これらがすべて食べ放題で、料金は大人二千三百円、子供千二百円(共に前売券)。午前と午後百名ずつの二百名限定

で販売されました。訪れた方々は、山里の本物のそばをお腹いっぱい味わっていました。

そのほか会場では、会津地鶏の焼き鳥や、いわなの串焼き、農産物なども販売されました。また、第二会場の圓福寺では、古刹見学、揮毫、民話、舞踊が行われました。

おおたに新そばまつりに、県内外から毎年定員いっぱいのお客があり、山里で味わう美味しいそばが人気を集めています。

三島町の職員等の給与・職員数の状況をお知らせします

町職員等の給与は、民間給与の調査に基づく国の人事院勧告を基本に、県や他の公共団体との均衡などを考慮しながら、町議会の審議を経て条例で定められています。（ここに用いている数値は、平成20年4月1日現在の「地方公務員給与実態調査」及び「地方公共団体定員管理調査」などを基にしています。）

1. 職員の任免に関する状況

・採用職員と退職職員

区分	採用者数(A)	退職者数(B)	(A)-(B)
一般行政職	0人	1人	△1人

(注)採用者数は、H20.4.1付新規採用者、退職者は、H19.4.1～H20.3.31の退職者を表します。

2. 人件費の状況（普通会計）

区分	住民基本台帳人口 (平成19年度末)	歳出額 (A)	実質収支	人件費 (B)	人件費率 (B)/(A)	18年度の 人件費率
19年度	2,167人	1,857,908千円	85,192千円	384,212千円	20.7%	19.6%

普通会計の人件費には、一般職員や特別職（町長・副町長・議員など）に支給される給料、報酬などのほか、退職手当や共済等を含んでいます。

3. 職員給与費の状況（普通会計）

区分	職員数 (A)	給与費				一人当たりの給与費 (B/A)
		給料	職員手当	期末勤勉手当	計(B)	
20年度	40人	152,658千円	28,781千円	58,354千円	239,793千円	5,995千円

当初予算に計上した職員の給与費です。職員手当とは、扶養手当、住居手当などの諸手当です。

4. 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況

区分	平均年齢	平均給料月額※1	平均給与月額※2
一般行政職	43.6歳	312,500円	361,000円
技能労務職	45.7歳	284,800円	301,300円

一般行政職とは、一般行政事務に従事する事務職員をいい、技能労務職は調理員をいいます。

※1「平均給料月額」とは、平成20年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均です。

※2「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、住居手当などの諸手当の額を合計したものです。

5. 職員の初任給の状況

区分		三島町		国	
		初任給	2年後の給料	初任給	2年後の給料
一般行政職	大学卒	174,300円	186,400円	174,300円	186,400円
	高校卒	141,900円	150,400円	141,900円	150,400円
技能労務職	高校卒	144,900円	154,500円	—	—

学校等卒業後すぐに職員として採用された者の初任給と、その後引続き2年間勤務したときの給料月額です。

6. 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況

区分		経験年数10～15年	経験年数15～20年	経験年数20～25年
一般行政職	大学卒	—	—	—
	高校卒	219,500円	264,600円	316,900円
技能労務職	高校卒	—	—	—

7. 一般行政職の級別職員数の状況

区分	1級	2級	3級	4級	5級
標準的な職種	主事・主事補	主査	主査・主任主査	主幹・課長補佐	課長
職員数	3人	11人	16人	4人	6人
構成比	7.5%	27.5%	40.0%	10.0%	15.0%

注1 三島町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。

2 標準的な職種内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。

8. 職員の勤務時間の状況及び有給休暇取得状況

①一般職員の勤務時間の状況及び有給休暇取得率

1週間の正規の勤務時間	1日の正規の勤務時間	勤務の開始時間	勤務の終了時間	休憩時間	有給休暇平均取得日数	有給休暇取得率
40時間	8時間	8時30分	17時30分	12時00分～13時00分	8.6日	26.0%

注 有給休暇平均取得日数及び有給休暇取得率は、平成19年1月1日～12月31日までのものです。

②育児休業及び介護休暇の取得状況（平成19年度）

育児休業取得職員	1名
介護休暇取得職員	なし

9. 職員の服務の状況（平成19年度）

- ① 営利企業等の従事に関する許可の状況： なし
- ② 服務に専念する義務の特例に関する条例による免除の状況： 8件
 - ・年中行事等への参加
 - ・地方公務員法第42条に基づいて実施される厚生事業への参加など

10. 職員の研修の状況

① 研修の開催状況（平成19年度）

区分	件数	参加者数
各種研修	7件	8人

11. 職員の福祉及び利益の保護の状況

① 職員の健康の保持増進新対策

種類	受診者数
生活習慣病検診	32人
人間ドック	4人

② 公務災害等の状況

・平成19年度における公務災害： なし

12. 職員の分限及び懲戒処分状況

13. 勤務条件に関する措置の要求

14. 不利益処分に関する不服申し立て

15. 技能労務職等の給与等の見直し

平成19年度は該当なし

技能労務職は退職不補充による民間委託を検討

これからの行事予定 town schedule

- 12月8日(月) 9:30~ 保健推進員研修会(町民センター)
- 12月11日(木) 9:30~ 心配ごと相談(福寿草)
- 12月12日(金) 13:00~ 第3回地域福祉活動講座(町民センター)
- 12月15日(月) 10:30~ 小型ポンプ付積載車受納式(町民センター)
- 12月18日(木) 10:00~ ワンダークラブ「餅つき」(三島保育所)
- 12月19日(金) 10:00~ Y Yサークル(昭和村すみれ草) 14:00~ 第3回三島町歴史文化基本構想等策定委員会(町民センター)
- 12月20日(土) 13:30~ 第5回奥会津案内人講座(21日まで)(森の校舎カタクリ)
- 12月22日(月) 15:00~ 町営スキー場開き(町営スキー場)
- 1月5日(月) 10:00~ 新年名刺交換会・自治功労表彰式(町民センター)
- 1月6日(火) 9:30~ 三島町消防団出初式
- 1月11日(日) 第6回奥会津案内人講座(12日まで)

小正月行事

1月14日(検原・滝谷地区) 鳥追

1月15日(各地区) サイの神

※「三島のサイの神」は、今年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されています。



みんなで健康づくり《教室・健診の予定》 役場 町民課 保健福祉係 Tel 48-5565

からだ元気運動教室 12月11日(木)13:30~ 町民センター 1月13日(火)13:30~ 町民センター



足腰げんき教室 〇室内運動編 12月17日(水)13:30~ 町民センター 1月7日(水)9:30~ 町民センター

スッキリサラサラ教室 12月18日(木)9:00~ 町民センター

早戸地区高齢者運動教室 12月22日(月)13:30~ 早戸生活改善センター

《社会福祉協議会より》 生きがいデイサービス 「サロン事業」の予定

- 12月16日(火) 10:00~ 検原多目的集会所
- 12月18日(木) 10:00~ 滝谷集会所
- 1月8日(木) 10:00~ 滝谷集会所
- 12月25日(木) 10:00~ 高清水集会所

ご寄付ありがとうございました

ふるさと納税として

太田 忠 紘 様 (神奈川県横浜市)

社会福祉協議会へ

ご遺志によるもの

渡部 清市 様 (荒屋敷) 長谷川 栄進 様 (川井)

一般のご寄付

民生児童委員OB平成会様

今月の納税

- 〇固定資産税 第3期
- 〇国民健康保険税 第5期
- 〇介護保険料(普通徴収) 第5期

※納期限は12月25日です。

歳時記 萌の会

爺婆の腰を伸ばして柿熟れる 人もまた添景として紅葉山

宮下 佐藤 朋良子

晩秋や来るはずのなき人を待つ あるがままコップに活けて秋の草

宮下 栗城 三保

宝くじの助成金により 防災訓練用品を整備

役場 総務課 総務係

町では、財団法人自治総合センターが全国自治宝くじの普及広報事業として行っている「ふるさと消防団活性化助成事業」により、下記の訓練・広報用機材を購入し防災のために役立てています。

用具・機材	数量
訓練用消火器(水消火器)とノズル接続ジョイント	3本
蘇生法教育簡易モデル(ダミー人形)と訓練用AED	1式
角型水槽	2組
ノートパソコン	1台
プロジェクター	1台
キャリングケース	1個



宝くじは 豊かさ築く チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では10月中、工場荒し1件、詐欺1件が発生しました。県内において、振り込め詐欺の被害が依然として多発しています。最近では、警察官を名乗り、キャッシュカードの暗証番号を聞き出したり、カードを騙し取る手口が発生しています。不審な電話や訪問者には十分注意し、危険を感じたらすぐに通報してください。

街頭犯罪等発生状況(1~10月)

区分	管内	三島町
空き巣ねらい	1	1
忍込み		
事務所荒し	3	
出店荒し		
自動車盗	3	
オートバイ盗		
自転車盗	7	
自販機ねらい	6	
車上ねらい	5	1
強制わいせつ		
街頭犯罪計	25	2
全刑法犯	111	6

※全刑法犯には、街頭犯罪以外(器物損壊・傷害・万引き等)の犯罪発生件数が含まれます。

火災予防 年末年始特別警戒実施 12月15日~1月15日

会津坂下消防署 三島出張所

暖房器具の使用が多くなる時期です。次のことに注意して火災を防止しましょう。

1. 暖房器具の上には洗濯物を干さない。
2. 暖房器具の周りには燃えやすい物を置かない。
3. 点火したまま動かしたり給油したりしない。
4. タコ足配線をしなない。

※住宅火災から命を守るために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

会津坂下消防署 三島出張所 Tel 52-3032

年末年始交通事故防止 県民総ぐるみ運動 12月10日~1月7日

交通安全協会三島分会 三島町交通安全母の会

年末年始は、飲酒や外出の機会が多くなります。交通安全の意識を高め、交通ルールを厳守し、県民総ぐるみで交通事故を防止しましょう。

スローガン

「そのお酒 飲ませたあなたも 共犯者」

日本標準時

「うるう秒」が挿入されます

福島県 総務部 市町村行政課

平成21年1月1日に3年ぶりに「うるう秒」調整が行われます。「うるう秒」とは、地球の公転・自転と時刻のずれを調整するものです。今回の調整は、1月1日の午前8時59分59秒と、午前9時00分00秒の間に、「午前8時59分60秒」が挿入されます。

NTT東日本の電話帳 新しいものを届けます

NTT東日本福島支店

12月中に新しい電話帳(平成21年1月発行)を各家庭・事業所にお届けします。その際、現在使用している電話帳は新しいものとお取替えしますので、配達員へお渡しください。

タウンページセンター Tel 0120-506-309

連載

心の医療

福島県立宮下病院からの情報コーナー



福島県立宮下病院 内科医 阿部 諭史 先生

肺炎を予防する ワクチン

名前は「肺炎球菌ワクチン」といって、肺炎球菌によって引き起こされるいろいろな感染症を予防するためのワクチンです。肺炎球菌とはその名の通り肺炎を引き起こす球状の細菌で、その他にも中耳炎、副鼻腔炎(蓄膿症)、髄膜炎の原因菌ともなります。しかし、肺炎球菌以外で起きた感染症は予防できません。

肺炎の原因は細菌やウイルスなどがあり、それぞれにいろいろな種類がありますが、普通に生活している高齢者の場合は肺炎球菌が一番多いようです。高齢者の肺炎は重症化しやすいため注意が必要ですが、手術で脾臓を摘出した場合や脾臓の機能が低下している場合も重症化しやすく、あっという間に亡くなってしまふこともあります。

高齢者(特に65歳以上)の方、心臓や肺に病気がある方、糖尿病の方、脾臓がない方などにワクチン接種が勧められています。有効率は約60~80%で、その効果は人によって異なりますが、約5年間継続すると言われていています。ワクチンは生涯で1回しか摂取できないので、接種時期は医師と相談しましょう。

宮下病院事務部 Tel 52-2321